

## 1. 理念・目的

## 中期目標

【目標1】 大学・学部・研究科等の理念・目的を、定期的に検証し適切に維持する。

【目標2】 大学・学部・研究科の理念・目的を、大学構成員(教職員および学生)に周知し、社会に公表する。  
また、認知度を向上させる。

## (1) 大学評価委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 大学の理念・目的に定める人材育成が、時代に適合し社会から高い評価を受けることができる内容であることを、指標に基づいて客観的に評価し、検証する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)	
2015年度	年次計画内容 [1-1] 中期計画に基づき、達成度評価指標の適切性を検証する。	計画実施状況 設定した3つの指標に基づく理念の検証を行った。指標①に関しては2012年度から2014年度にかけて69.9%,70.3%,73%と推移している。指標②、③に関しては本学HPにおいて広報されているものを対象として検証した。掲載件数では②が35件、③が13件となっている。いずれの活動も広範囲にわたっている。 本学の目的に記されている「北海道に貢献しうる人材育成」に関しては指標②、③の活動内容、①の職種等をもとに検証できると考えられるが、今年度は実施していない。	指標に基づく中期目標の達成状況 3つの指標は、いずれも人材育成の有効性と関連づけられており、目的および理念を検証する上で機能すると考えられる。
2016年度	年次計画内容 [1-1] 中期計画に基づき、3つの達成度評価指標に基づく評価を引き続き実施し集約する。その結果に基づき、「北海道に貢献しうる人材育成」の達成状況を検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度調査結果	
2015年度	年次計画内容 [2-1] 大学の理念・目的を、多様な機会を用いて構成員に広報・周知し、理解度と認知度が深まるように工夫する。	計画実施状況 従来の広報・周知に加え、在学生、特に新生へへの周知を目的として、新たに本学の理念を紹介する映像を作成し、新学期にコラボレーションセンターのデジタルサイネージで定期的に配信を行った。 今年度は認知度調査を行っていない。実施に向けては2012年度まで1年生に実施していた「学生生活に関する満足度調査」の実施方法・対象学年・設問内容の精査を行う必要がある。	指標に基づく中期目標の達成状況 新たな取り組みは行ったが、認知度調査は未実施である。認知度向上に向けた取り組みとしては初期段階にある。
2016年度	年次計画内容 [2-1] 大学の理念・目的を、多様な機会を用いて構成員に広報・周知し、理解度と認知度が深まるように引き続き工夫する。また、理念・目的の認知度調査について、2017年度の実施に向け、その方法・対象学年・設問内容の精査を行う。		

## (2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 現行の経営学部の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)	
2015年度	年次計画内容 [1-1] 現行の経営学部の目的と、2015年度の教育・研究活動の成果との関連性について評価する。	計画実施状況 実践科目の実施や資格獲得のための学修を通じ経営学部の目的に沿った人材を育成した。	指標に基づく中期目標の達成状況 高い水準の進路決定状況から目的は適切に維持されている。
2016年度	年次計画内容 [1-1] 現行の経営学部の目的と、2016年度の教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、経営学部では1年次から4年次まで少人数のゼミを開講しているため、その機会を利用するなど新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度調査結果	
2015年度	年次計画内容 [2-1] 大学の理念・目的等について、学部ガイダンスやゼミにて説明を行い、周知を図る。	計画実施状況 新生ガイダンスやゼミにおいて大学・学部の理念・目的について説明を行なった。	指標に基づく中期目標の達成状況 調査は行なわれなかった。

1. 理念・目的

2016年度	年次計画内容
	[2-1] 大学・学部理念・目的等について、学部ガイダンスやゼミにて説明を行い、周知を図る。

(3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 現行の経済学部理念・目的と教育・研究活動の成果との関連性について検証し、評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) (他校とのセミナー開催・参加あるいはインターンシップ活動への参加について統計データを用いる) ③学内の諸活動参加状況(協働) (入学式や卒業式やその他の行事での学生からの援助などの統計を用いる)	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを検証する。	「自律」に関しては、進路決定状況を毎月報告し、確認した。「人権」、「共生」については、他大学とのセミナー参加・報告する、インターンシップへの参加を促す、ゼミIで合同ゼミを開催するなどして、体現することに努めた。「協働」については、入学ガイダンスの際に学生サポートを呼びかけるなどをした。これらの方法を議論したものの、本学の人材育成の目的が適切に機能していることは完全には検証できていない。	現行の経済学部理念・目的に従い、教育・研究活動を行ってきたが、今後も関連性については具体的に検証していく。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 大学の刊行物、経済学部のホームページ、ガイダンス、保護者懇談会、高校訪問などの機会を通じて、多様な方法で理念や目的を周知し、その認知度を高める。さらに、各方法の効果を検証し、必要があれば新たな周知方法も検討する。		① 理念・目的の認知度調査結果(2015年度) ② ホームページへのアクセス数 ③ 大学の広報室の活動から得られる情報 ④ 高校訪問、保護者懇談会などの生の情報	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 大学の理念・目的等について、学部ガイダンスや父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。	学部ガイダンスや父母懇談会にて説明し、周知を図った。	高校訪問、保護者懇談会などの情報を共有し、更なる認知度を高めるよう、努めた。しかし、各方法の効果の検証は十分ではない。
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 大学・学部理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を向上させる。		

(4) 人文学部共通

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 大学の理念・目的および人文学部の目的と、各学科における教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		進路決定状況	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学生の進路状況からその理念・目的が達成されているか検証する。	学生の進路状況と、理念・目的の一致度について検証する機会を学部として設けることはできなかったが、2月末日時点での内定状況からは、人文学部では昨年度より内定率が上昇しており、社会に貢献しうる人材の育成に成功していると考えられる。	今後引き続き教育・研究活動の成果として学生の進路決定状況の検証をする必要がある。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 2015年度卒業生の進路状況を分析するとともに各学科の教育研究活動との関連性について検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 人文学部教員ならびに関係職員が、大学・学部理念・目的を理解し、その教育・研究活動との関連性について検証する。 [2-2] 学生や社会に対し、刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		[2-1,2-2 共通] 理念・目的の認知度調査結果	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 人文学部に関わる教職員に対し、大学・学部の目的を理解させ、それを有効に教育・研究活動に反映させる方法を検証する。	学部としての取り組みはできず、各学科の教育・研究活動に委ねた。	教職員が理念・目的について改めて理解するような取り組みについて検討が急がれる。また認知度を測る調査の実施には至っていない。【指標なし】
	[2-2] 人文学部の諸行事において、大学・学部の理念・目的について周知する。また人文学部の目的および各学科	1年生の人文学部合同講演会(6月5日)「デートDVってなに？」NPO ピーチハウス 志堅原郁子氏 参加者 171名	人文学部全体で行った2つの行事において、大学の理念の説明を行い、また教育目標・教育内容については履修要

	の教育目標・教育内容をアピールする 刊行物の可能性を模索する。	(H65、L29、R52、D25)の冒頭で 学部長が本学の理念を説明。同様に1 年生の体育大会(6月13日)でも開会 式で説明。学科の教育目標・教育内容 は入試説明の高校訪問時やオープンキ ャンパスでアドミッション・ポリシー と共に説明した。	項等の印刷物に掲載している。しかし ながら、その認知度を測る調査の実施 には至っていない。 【指標：履修要項】
2016 年度	年次計画内容		
	[2-1] 大学・学部の目的を理解させ、それを有効に教育・研究活動に反映させる方法を検証する前提として、学部教員の教育研究活動を可視化し、これを共有するための方策を検討する。		
	[2-2] キャリア支援課、広報入試課と調整をはかりながら、学部運営費も活用しつつ学部の教育内容、教育活動の広報に努める。		

## (5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 毎年履修要項の改正時期にあわせて、学科の理念・目的及び「人間科学科教育のめざすもの」を学科会議等において確認・検証する。	履修要項	
2015 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する。	[1-1] 新年度の履修要項の作成にあたっては、そのつど学科会議・教務委員会で検討・確認した。	検討の結果、適切に維持できていると判断したので、来年度以降もこの体制を継続する。【指標：履修要項】
2016 年度	年次計画内容		
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々の刊行物</li> <li>ホームページのコンテンツおよびアクセス状況データ</li> </ul>	
2015 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学科パンフレットの編集発行、学科ホームページの構築をとおして、学科の理念・目的について学科会議で検討・確認するとともに、社会的な認知をはかる。	学科パンフレットを1回発行した。学科ホームページ(ブログ)を年度内に30回更新した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科パンフレットは計画どおり発行できたが、認知度向上に繋がっているかという検証は、その方法の検討を含め次年度以降の課題である。 【指標①学科パンフレット】</li> <li>ブログの更新回数は、予定(12回)の倍を超えることができた。平均ページビューは960/日であったが、当面は2,000/日を目指す必要がある。 【指標②「Usage Statistics for jinbunweb.sgu.ac.jp」】</li> </ul>
2016 年度	年次計画内容		
	[2-1] 学科パンフレットの編集発行、および、新サーバーへの移行に伴う学部及び学科ホームページの再構築をとおして、学科の理念・目的の周知方法について学科会議で検討・確認する。		

## (6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「実用英語」科目の履修状況</li> <li>②「専門分野」科目の履修状況</li> <li>③進路決定状況</li> </ul>	
2015 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「英語運用能力の養成」「専門分野の体系的学習」「地域・国際社会に貢献できる人材育成」という学科の目的の骨子を実現する教育・研究活動を調査し、本学科の目的が適切に機能していることを検証する。	本学科の目的や教育目標は、それを実現すべく開講されている各専門科目の履修状況(5月の学科会議にて)ならびにその延長線上にある進路決定状況(5月から毎月の学科会議にて)等で確認し、「学科の目的」「開講科目」「学生のニーズや目標」に齟齬がないかを検証した。	今年度は、学科の目的の骨子を実現する教育活動の検証に着手した。 【指標①②③】
2016 年度	年次計画内容		
	[1-1] 今年度は、学科の目的の1つである「英語運用能力の養成」に関し、教育活動の成果との関連性を検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	理念・目的の認知度調査結果	
2015 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。	本学科の目的や教育目標や各専門分野の教育・研究活動との関連性は、入学式の学科企画、学科ガイダンス、履修要項、保護者懇談会用刊行物(『札幌学	今年度、公表は実施した。認知度調査はその方法について検討を開始した。 【指標なし】

1. 理念・目的

		院大学の教育』), ホームページ等で公表した。
2016年度	年次計画内容	[2-1] 昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査に関しては、全学の動向を見守るとともに、学科独自の調査方法について、検証を継続する。

(7) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 臨床心理学科の理念・目標を維持するため適切な教育・研究活動が行われているかについて、学科教育の成果としての進路決定状況や資格取得状況を参考に臨床心理学科会議で検証する。	① 進路決定状況 ② 精神保健福祉士合格率 ③ 大学院臨床心理学研究科進学率 ④ 臨床心理士試験合格率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「自立」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを検証する。	毎月の教授会において開示される就職委員会による資料をもとに、「自立」という理念を体現する進路決定状況については検証を重ねてきた。「人権」「共生」「協働」の理念については、教育福祉系職への進路決定率、精神保健福祉士国家試験の合格率、大学院臨床心理学科への進学率および終了後の臨床心理士試験合格率において体現されているが、これらについても経年の推移をモニターしている。	2015年度の就職決定率(進路決定状況)は例年に比べて高く、これは自律的な人材を育成できていることに対する社会的な評価を反映しているものと思われる。  【指標①「進路決定状況」】 【指標②③④】
2016年度	年次計画内容	[1-1] 昨年度に引き続き、本学科の人材育成の目的が適切に機能しているかを検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 臨床心理学科の目的について、入学式での学科長挨拶と新入生ガイダンスにおいて周知し、また学科のホームページや、学科の刊行物においても掲載する。また、2014年度より学科独自に開催している、高校生向けの市民講座においてもこの目的を周知し、学外の人びとにも広く浸透するような活動を行っていく。	学生生活アンケート	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 臨床心理学科の目的について、入学式、学科ガイダンスや父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。	臨床心理学科の目的については、入学式、新入生ガイダンス、高校生向け市民講座において周知することができた。	学科の目的について定期的に周知することはできているが、今後より浸透していくよう工夫が必要である。また認知度について検証する方法を検討する必要がある。【指標なし】
2016年度	年次計画内容	[2-1] 入学式等の機会に、本学科の目的について継続して周知を行う。	

(8) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 現行のこども発達学科の目的を、これまでの教育活動の成果との関連性について定期的に検証し、必要に応じて対策を講じ、両者の整合性を図る。	① 教育機関・保育施設等の教育・子育て支援に関わる進路の決定状況 ② 教員免許・保育士資格の取得状況 ③ 教員養成の理念 ④ 教職課程履修カルテ	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] ① 変化する社会要請や保育士養成カリキュラムの追加など、学科内外の変化を捉えた教育理念と目的を再確認していく。 ② これまでの学科の卒業生の教育機関・保育施設等の教育・子育て支援に関わる進路の動向、現在の在学学生数、入学者数の経年変化を整理し、教育目標にあっているかを確認する。 ③ 2014年度からスタートした保育士養成カリキュラムの希望者の動向を把握し、教育目標と学生の進路の整合を図る。また実習のための「保育実習ハンドブック」の作成運用をおこなう。 ④ 教職課程希望学生が自らの履修状況を把握するために、従来用いていた「履修確認表」を改訂した「教職課程履修カルテ」を作成して、教育活動の充実を図る。	本目標を調査、整理と対策、検証と維持の3段階に分けて、それぞれの達成度をチェックする計画を立てた。2015年度は主に目標達成のための計画立案を行い、その初期段階として情報収集を中心におこなった。	調査を3/5実施。整理と対策を1/4実施。達成を0/2実施。  【指標「目標達成のための計画表」(以下「計画表」)D1-1】 【指標「進路希望調査」】 【指標「教員免許取得状況」】 【指標「保育実習ハンドブック」】 【指標「教職課程履修カルテ」】
2016年度	年次計画内容	[1-1]	

<p>① 小学校課程や保育士養成カリキュラムなど、学科内外の変化を捉えた教育理念と目的を再確認していく。</p> <p>② 学科の卒業生の進路の動向、現在の在学学生数、入学者数の経年変化を整理し、教育目標にあっていないかを確認する。</p> <p>③ 3年目を迎える保育士養成カリキュラムの希望者の動向を把握し、教育目標と学生の進路の整合を図る。また実習のための「保育実習ハンドブック」の運用、改善をおこなう。</p> <p>④ 教職課程希望学生が自らの履修状況を把握するための「教職課程履修カルテ」の活用と修正を重点的に行い、教育活動の充実を図る。</p>
---

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] こども発達学科の理念・目的の周知効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①進路別、学年別の履修状況 ②ホームページ更新数、閲覧数	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[2-1]</p> <p>① こども発達学科は設立10年目となるが、その理念・目的、さらにはこれまで積み上げてきた卒業生の実績を整理し、社会や高校に十分届いているかを把握し、足りない点や新たな周知方法を探る。</p> <p>② 学科の卒業生で教職にかかわる組織を検討し、彼らを通じて臨時採用の既卒生への情報提供や周知を心がける。</p> <p>③ 教職員の誰もが情報発信をできるようなホームページやブログのシステムを再構築する。</p>	<p>本目標を学内と学外に分け、それぞれを調査、検証と対策、達成に分けて、それぞれの達成度をチェックする計画を立てた。</p> <p>2015年度は主に目標達成のための計画立案を行い、その初期段階として情報収集を中心におこなった。</p> <p>卒業生のインタビューより卒業生が地域ごとに結集でき、情報交換をできる組織の必要性が判明したので、組織づくりについて議論し、着手した。</p> <p>従来手法から全教職員が情報発信できるブログ形式に再構築を進め、現在移行作業を進めている。</p>	<p>学内：調査を2/3実施。検証と対策を1/2実施。達成を0/1実施。</p> <p>学外：調査を2/3実施。検証と対策を1/4実施。達成を0/1実施。</p> <p>【指標「計画表」D1-2】 【指標「こども発達学科卒業生の会、送付ハガキ」】</p>
2016年度	年次計画内容		
	<p>[2-1]</p> <p>① こども発達学科は設立10年目となるが、その理念・目的、さらにはこれまで積み上げてきた卒業生の実績を整理し、社会や高校に十分届いているかを把握して足りない点や新たな周知方法を探る。</p> <p>② 学科の卒業生にかかわる組織設立に重点的に取り組み、彼らを通じて臨時採用の既卒生への情報提供や周知を心がける。</p> <p>③ 教職員の誰もが情報発信をできるようなホームページ(ブログ形式)のシステムの再構築に取り組む。</p>		

## (9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] ①現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。 ②①の関連性の評価にもとづき学部理念・目的を定期的に検証する。		①社会活動への参加状況(豊かな人間性の涵養及び人権感覚を基盤とした法的思考能力) ②法学検定試験の合格状況(法の役割と内容の教授研究) ③国際交流状況(国際感覚) ④就職状況(人材の育成)	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[1-1]</p> <p>①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察の非行少年立ち直りのボランティアへの参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり議員インターンシップの参加を奨励する。</p> <p>②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させ」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。</p> <p>③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率(留年生を含む)を90%以上にしよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的(理念)及び教育目標が妥当であるのか点検する。</p>	<p>[1-1]</p> <p>①北海道警察の非行少年の立ち直りをサポートする jumpers のガイダンスを、北海道警察少年課の担当刑事にお願いし開催した。多くの法学部生が登録した。また聴覚障がい学生のノートテイクのボランティアについても法学部生に誘導を図った。議員インターンシップについても法学部生のスタッフ(NPO ドッドジェイピー)による説明会を開催した。</p> <p>②法学検定試験対策の法学部の専門科目「法学スキル基礎」(2年生履修科目)を前期に開講した。</p> <p>③「海外フィールドワーク A」を開講し、研修旅行として中国の南京師範大学に学生を引率した。またキャリアスキル基礎 B、キャリアスキル応用 B で会話中心(TOEIC 試験対策)の英語教育を実施した。外国書講読 A、外国書講読 B では英語のリメディアル教育を試みた。これらの実施状況を踏まえて来年度のこれらの専門科目については大幅な更新を行うことにした。</p> <p>④就職状況を改善するために前年度に引き続き、担任を介した就職指導を推進した。また後期の後半では、就職委員とともに学部長、学科長、教務委員長が未内定で就活が沈滞している学生に個別に連絡を取るなど指導を徹底した。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的</p>	<p>①北海道警察の大学生ボランティア jumpers には法学部生が40名以上登録しており、10名以上の学生が実際に非行少年の立ち直りサポートに参加している。本学における聴覚障がい学生のためのパソコンテイク・ノートテイク、さらに通学介助を合わせ11名の学生が参加している。議員インターンシップについては正確な人数把握はできないが、この数年は毎年5名程度の法学部生が参加している。これらのボランティア活動、議員インターンシップへの学生の参加を促すために、NPOの関係者などを講師とする2016年度前期に「法政特殊講義 A(地域活動実践論)」を開講することとなった。この科目とボランティア活動、議員インターンシップなどを単位化する「地域インターンシップ A」が連動して効果を発揮することが期待される。</p> <p>②法学検定ベーシックの受験者は96名、合格者は37名で合格率は38.5%であった。法学検定スタンダードの受験者は5名、合格者は3名であった。法学検定ベーシックの全国の合格率は60.2%であり、20%程度の開きがある。試験対策の専門科目「法学スキル基礎」は2015年度から始まっており、初年度の合格率としては穏当なところであろう。来年度は合格率を10%引き上げ50%台にするため、試</p>

1. 理念・目的

		に検討した結果、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であると判断した。	<p>験対策をより充実することに決めている。受験者が 100 名を大きく超え全国的にも多くの受験者を出す大学となるであろうことから、合格率を全国平均にまで引き上げるのは容易ではないが、達成できればそれは法学部の教育力の成果を示すものとなる。</p> <p>③国際交流を促す専門科目「海外フィールドワーク A」では中国の南京師範大学への研修旅行を実施した。これに参加した学生数は 7 名である。</p> <p>④法学部の 2 月末現在の内定率は 80%を若干超える程度であり、目標値の 90%には届いていない。来年度は後期の早い段階から就活が不振な学生への担任、執行部、就職委員の 3 者の連携を強化した取り組みを展開したい。それによって目標値の 90%を達成したい。</p>
2016年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[1-1]</p> <p>①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察の非行少年立ち直りのボランティアへの参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり議員インターンシップの参加を奨励する。</p> <p>②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させ」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。</p> <p>③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率（留年生を含む）を 90%以上にしよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であるのかを点検する。</p>		

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]		①印刷物、HP などへの掲示実績	
①履修要項等の刊行物、ホームページ、高校へのニュースレター、掲示物、新年度の在学生向けガイダンス等の手段によって周知をはかるとともに、その効果を検証する。			
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]	[2-1]	
	①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。新入生、及び在学生のガイダンスにおいて説明する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。	①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載した。法学部の独自ホームページで紹介している。オープンキャンパスにおいて、また法学部生対象の4月上旬のガイダンスにおいて説明した。高校へのニュースレターでも広報した。	①法学部の独自ホームページは年度初めに大幅に更新するだけでなく、随時更新している。ニュースレターは 2016 年 1 月に発行し、高校代表メールアドレス宛に email で送信した。ニュースレターには、法学部の教育目標及び教育戦略を明示した。
	②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。	②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証した。	②年次計画は達成されている。その効果については、法学部生が資格取得で成果をあげている点、また法学部の受験者数が増えている点などから見て、一定の効果があると判断できる。
2016年度	年次計画内容		
	[2-1]		
	①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。		
	②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。		

(10) 社会情報学部

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
現行の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①課題研究・卒業論文へ取り組む姿勢 ②資格取得への取り組みと成果 ③学内の諸活動参加状況 ④社会的活動への参加状況	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	大学・学部の教育目標にふさわしい取り組みを積極的に収集し、その成果を評価し、学内外へ発信していく。	課題研究・卒業論文において、学生個人が社会情報現象の現代的課題を取り上げ、大学生活を通じて培ってきた能力を用いて問題を把握・分析し、解決策を検討した。社会情報学部での学習の成果を資格取得に結びつけることを奨励し、資格取得に関する費用の一部補助を行った。	①課題研究・卒業論文の成果は、要旨を抄録集としてまとめるとともに報告会を開催した。 ②情報系の資格試験の受験料補助を 1 名に、社会調査士の認定料補助を 2 名に対して行った。また、エクステンションセンターの受講料補助を延 7 名の学生に行った。 ③④学部として参加状況を把握でき

		なかった。
2016年度	年次計画内容 大学・学部の教育目標にふさわしい取り組みを積極的に収集し、その成果を評価し、学内外へ発信していく。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度状況の把握 ②新たな周知方法の実行	
2015年度	年次計画内容 大学の理念・目的等について、学部ガイダンスで説明するとともに、これまでの教育成果について紹介する。	計画実施状況 学部ガイダンスにおいて大学と学部の理念・目的などについて説明を行った。2年生、3年生はガイダンスで、4年生は学位記授与式で学業優秀生の表彰を行い、学習成果を公表した。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①理念・目的についての認知度の把握は行わなかった。 ②新たな周知方法の検討は行わなかった。
2016年度	年次計画内容 大学の理念・目的等について、学部ガイダンスで説明するとともに、これまでの教育成果についてまとめ、情報発信する。		

## (11) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 法学研究科は、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況、本研究科の教育・研究活動の成果との関連において、本研究科の目的・教育目標の適切性について不断に評価を行う。		①本学の理念・目的 ②本研究科の置かれた状況 ③修士学位授与率 ④修了生進路状況	
2015年度	年次計画内容 [1-1] 本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況及び本研究科の教育・研究成果に照らして、本研究科の目的・教育目標の適切性について評価する。	計画実施状況 [1-1] 本研究科運営会議において評価を行ったが、現時点では本研究科の目的・教育目標は適切であると判断する。但し、CFP認定教育プログラムについてはその今後のあり方を引き続き検討することとする。	指標に基づく中期目標の達成状況 ②については、今年度実施の入学試験における本研究科志願者は14名と一定の需要水準を依然維持している。今年度は志願者全員が税法志望者であったが、それ以外の分野を志望する者も一定程度存在している。 ③修了対象者10名中8名に修士の学位を授与した。 ④修了生8名中、税理士志望の6名全員が税理士事務所勤務で、残り2名が民間企業志望である。
2016年度	年次計画内容 [1-1] 2015年度に引き続き、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況及び本研究科の教育・研究成果をふまえ、本研究科の目的・教育目標の適切性について評価する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた周知方法の効果を検証するとともに、必要であれば新たな周知方法を検討する。		①目的・教育目標の認知度調査結果	
2015年度	年次計画内容 [2-1] ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ④年度初めのガイダンスで周知を図る。	計画実施状況 [2-1] ①『大学院案内2016』を発行した。 ②ホームページの内容の更なる充実が課題である。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会(学外では合計4回)を通じて周知を図った。 ④年度初めのガイダンスでも周知を図った。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①目的・教育目標の認知度について特に調査は行わなかった。
2016年度	年次計画内容 [2-1]2015年度に引き続き、次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ⑤度初めのガイダンスで周知を図る。		

## (12) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 臨床心理士に求められる資質を涵養する臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを検証し維持する。		①カリキュラム、シラバス ②臨床心理士試験合格者数 ③修了生就職先	
2015年度	年次計画内容 [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを設立当初から維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきたので、本年度の状況を把握し	計画実施状況 計画に沿って遂行した。なお②は過年度修了生で合格した者を含めた累積での数値。臨床心理士試験不合格者については、奨学金免除を受	指標に基づく中期目標の達成状況 ①達成 ②達成7名(累積115名、修了生全員を母数とする比率85.2%) ③達成

1. 理念・目的

	必要な対応を計画ないし遂行する。	けた能力の高い修了直後の修了生2名が不合格という事実があるため一層の状況分析が必要である。	就職率(2014年度修了生全員を母数とする比率87.5%)
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきたので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[1-1] 理念・目的を刊行物、ホームページ、ガイダンスで周知し、公表する。	① 修士論文抄録集 ② WEB上修士論文タイトル ③ 心理臨床センター紀要 ④ WEB版心理臨床センター紀要(抜粋) ⑤ 学院ホームページ	
2015年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 大学院臨床心理学研究科の理念・目的等について、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。	<b>計画実施状況</b> 計画に沿って遂行した。なお、心理臨床センター紀要やWEBサイトの更新作業は必要な情報の確定後となるため更新作業は年度をまたぐ。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ① 達成 ② 達成(研究科委員会議事録) ③ 達成(心理臨床センター運営会議) ④ 達成(掲載作業中) ⑤ 達成(掲載作業中)
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。		

(13) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。	① 進路決定状況(自律) ② 社会活動参加状況(人権・共生)	
2015年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的に沿って現在の教育・研究活動を検証し、今後の地域社会マネジメント研究科の方向性について検討する。	<b>計画実施状況</b> カリキュラムの見直しをつうじて運営会議で今後の地域社会マネジメント研究科の方向性を検討した。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ① 今年度は社会人、留学生を除く修了生は1名である。進路は決まっている。 ② 社会活動の参加についてはなかった。
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的に沿って現在の教育・研究活動を検証し、今後の地域社会マネジメント研究科の方向性について検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	① 理念・目的の認知度調査結果	
2015年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。	<b>計画実施状況</b> パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 認知度調査は行わなかったがガイダンスなどを通じ周知している。
2016年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。		